
















## SDGs おおたスカイパートナー宣言書

(宛先)大田区長

私たちは、SDGs の内容を理解し、以下のとおり、大田区とともにSDGs の推進に取り組むことを宣言します。

&lt;宣言日&gt;令和7年10月7日

事業者情報		
事業者名		千栄住宅株式会社 / surge
代表者 職・氏名	職名	代表取締役
	氏名	隈本 納実
ホームページ URL (任意)		<a href="https://surge4kids.com/">https://surge4kids.com/</a>
事業者ロゴ (任意)		
事業者としての 2030 年のあるべき姿		
<p>私たち surge は、「すべての子どもが自分らしく暮らせる社会」を目指します。発達特性のある子どもも、体のサイズが一般規格に合わない子どもも、“おしゃれを楽しむ権利”を平等に持っています。2030 年には、そんな子どもたちと家族が自然に笑顔になれるような包摂的（インクルーシブ）な社会づくりの一端を担うブランドとして成長していきたいと考えています。</p> <p>また、地域に根ざしたものづくりを通じて、大田区から全国へ、そして世界へと「やさしさの循環」を発信し、サステナブルで多様性を尊重する社会の実現に貢献します。</p>		

これまでに取り組んでいる・これから取り組みたいSDGs 17のゴール・目標（複数選択可） （これまでに取り組んでいるゴール・目標：○ これから取り組みたいゴール・目標：●）					
					
●		○●	●	●	
					
●	●	●	○●	●	○●
					
●		●	●	○●	

目標の達成に向けた取組内容等		
関連するゴールの数字を記入（複数記入可）	これまでの取組内容	これからの取組内容
3・4・5・11・15	<p>肌にやさしい綿素材を中心に使用し、感覚過敏のある子どもにも安心して着用できる設計にしている。</p> <p>縫い目やタグの位置、ゴムの締め付けなど、身体へのストレスを軽減するデザインを意識。</p> <p>子どもの発達特性や生活リズムに合わせ、家庭で無理なく着脱できる機能性を重視してきた。</p>	<p>オーガニックコットンや再生繊維など、より環境と身体にやさしい素材への切り替えを段階的に進める。</p> <p>保護者向けアンケートを実施し、子どもの快適性や健康面でのニーズを反映した改良を行う。</p> <p>医療的ケア児や感覚過敏児向けの新しいライン展開を検討。</p>
1・5・8・10・16	<p>一般の子ども服市場では対応しづらい「110 以上サイズのロンパース」という領域を開拓し、発達のゆるやかな子どもにも合う服を提供。</p> <p>SNS やイベントを通じて「みんなちがってみんないい」という価値観を発信し、多様性の理解を促進してきた。</p>	<p>障がい児や発達特性のある子どもの家族を対象とした意見交換会・試着会を定期開催。</p> <p>インクルーシブデザインを意識した新商品の開発。</p> <p>海外の同様の取り組み（発達障がい児服ブランド）との交流や情報交換を通じ、より広い視点で社会的包摂を推進。</p>

	当事者家族や療育関係者からのフィードバックを受け、服の使い勝手を改善。	
7・9・12・13・15	小ロット生産で在庫を最小限に抑え、廃棄ロスを削減。 必要な数だけ生産し、資源を無駄にしない仕組みを構築。 梱包材も再利用可能な素材や簡易包装を意識。	生地端材を使った小物・ワッペンなどの再利用企画を展開。 環境配慮型パッケージ（紙製封筒・再生素材袋）への移行。 使わなくなった子ども服を回収し、再販売・リメイク・寄付の仕組みを構築する。
4・8・9・11・17	大田区の展示会やギフトショーに大田区ブースの一員として共同出展し、地域企業・行政・福祉関係者とつながりを広げてきた。 カフェや雑貨店、区内コワーキングスペースにて販売・展示協力を得るなど、地域連携を実践。	大田区の子育て支援団体、福祉団体、女性起業家ネットワークとの協働を推進。 「おおたスカイパートナー」参加企業との連携イベントを企画し、地域のSDGs推進活動を可視化。 地域活動を通じて、他の小規模事業者へのSDGs導入支援も行い、地域全体の底上げを目指す。